

文芸

入選作品決定!



の募うた
さんとし
さ応が
くあり
たごあ
こざい

俳句

- 一席 躑躅つぐはしの名月すくい手に散らす 中井 ひろみ
 二席 白鷺の降り立ちている刈田かな 今井 匡子
 三席 山並を紫紺に浮かせ秋陽落つ 片山 千江子
 四席 蓋取れば訛飛び出す茸飯 井上 光子
 五席 蘇る母の笑顔や萩の花 若林 重信
 六席 老いる程いろ艶欲しい柿紅葉 石黒 良平
 七席 虫の音にいやされいつかねむりつく 小林 直幸
 八席 小銭持つ兎にせかさかれて秋祭 小菅 恒子
 九席 寿楽庵秋めく部屋に抹茶受く 藤本 光子
 十席 久々に里の青空赤蜻蛉 中島 千雄

短歌

- 一席 山里の暮れゆく空の余白にはすぢなりの枇杷熟れしままなり 片山 千江子
 二席 風の日は相ふれ鳴れる青竹のきびしきまでに音の澄みたり 今井 匡子
 三席 聞くまで見つめていたし花笑みのカサブランカのふくらむ蕾 藤田 百合香
 四席 夕焼けを手みやげにして訪ねたし少し元氣の失せたる友に 沼田 美幸
 五席 君は今なにを想うと愛犬の目をのぞきこむ五月雨の窓 菱岡 久米雄
 六席 宇宙さえ手にせしヒトの英知もて貧困・病い・戦さなき世を 香掛 修一
 七席 たくさんの蝶舞ふごとし園児らがバスの窓より我に手を振る 相原 千賀子
 八席 陽水の「ありがとう」の曲手話まじへフオークダンスのパートナー替はる 内海 良子
 九席 平塚の名はこの碑よりいでしかな東国下りのきびしき果てに 望月 英男
 十席 今しがた切り倒されたアカシアの太き切株樹液が光る 川上 辰江

川柳

- 一席 入院へ敷え切れぬ愛に触れ 及川 かず恵
 二席 墓誌眺め幾つになるか亡母の歳 越澤 孝
 三席 虹の色孫と敷えて恙がない 板垣 幸浩
 四席 敷えれば着ない和服の桐箆笥 今井 匡子
 五席 齢の敷かぞえて食べる福は内 坂口 哲雄
 六席 回る寿司これで二十個まだいける 上原 薫
 七席 想い出す学生寮とかぞえ歌 中島 千雄
 八席 脈敷ぞえ医師の小首が氣にかかる 笹尾 雅美
 九席 敷知れず孫の写真を持てあます 新井 彦哉
 十席 スマホより暗算早い喜寿の母 齋藤 亮子

俳句

応募者数 41 作品数 76

題「秋、秋季の季語の俳句」

石黒 和風 選

短歌

応募者数 37 作品数 72

題は自由

小柳 孝子 選

川柳

応募者数 33 作品数 95

題「敷える」(表現自由)

清田 由紀枝 選

お問い合わせ

〒254-8686 平塚市浅間町9-1

平塚市教育委員会 社会教育課

電話(直通) 0463(35)8123